

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2019.12 vol. 164

第6回 がん市民公開講座

令和元年11月16日(土)に第6回のがん市民公開講座を鹿児島県医師会館大ホールで開催いたしました。今年は外科・消化器外科が担当で、主題は「がん患者さんをチーム力で支える ～二人に一人が、がんになる時代を見据えて～」です。院長の開会挨拶にはじまり、第1部は講演として、「鹿児島医療センターのがん患者さんに対するチーム医療の取り組み：外科・消化器外科 菰方輝夫」、第2部はがん患者さんを支える様々な取り組みとして、①「AYA世代のがんを支える：小児科 田邊貴幸」、②「がん患者さんの口腔ケア：歯科口腔外科 中村康典」、③「がん相談支援センターについて：ソーシャルワーカー 水元玲子」、④「あなたらしく最善の選択ができるために：がん放射線療法看護認定看護師 江口洋子」、⑤「がんとお金の話(社会保険制度)：特定社会保険労務士 領家節子氏(招聘講演者)」、第3部は「質疑応答：座長 菰方輝夫／看護師長 堂園文子」、統括診療部長の開会挨拶で終了しました。

鹿児島医療センターのがん診療の取り組みを、“ONE TEAM”に例えて、がん患者さんご家族を多職種チームで支援するといったメッセージを込めて公開講座が展開されました。質問は、バリエーションが多く、大別したうえでの答えとなりましたが、多くの方が頷かれ、納得されている印象を受けました。出席者は112名で、昨今の市民公開講座の開催頻度からも、大勢を募るには、もう少しの工夫も必要かと感じました。

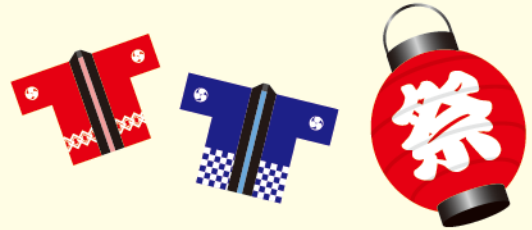
今回の経験を生かして、市民の皆様方へのがんについての情報提供をさらに充実し、がん拠点病院としての使命を果たして参りたいと思います。「継続こそ力なり」をもって、次年度にバトンタッチです。

最後になりますが、ご後援をいただきました鹿児島県、鹿児島市、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、鹿児島県歯科医師会、南日本新聞社に厚く御礼申し上げます。

(文責：外科・消化器外科 菰方 輝夫)



第68回 おはら祭り



令和元年11月2日（土）・3日（日）の2日間、鹿児島市にて南九州最大のお祭り「第68回おはら祭り」が開催されました。

『おはら祭』は鹿児島の秋の風物詩として、永年、県民に愛され続けてきた伝統ある踊りのお祭りですが、総参加者は約3万人、観覧者は20万人ともいわれ、我々、鹿児島医療センターは前夜祭となる11月2日（土）、医師・看護師はじめ全職種の有志で結成した総勢142名の踊りの隊列で今年の祭に挑みました。

当院では10月から毎週金曜の勤務時間外、参加者で集まり、「おはら節」「鹿児島ハンヤ節」「渋谷音頭」の踊りの練習を行うこととしましたが、地元鹿児島の職員の方々は手本となるスクリーンに写したDVDの映像を見なくても、実に軽快優雅に踊られます。

我々、他県出身の転勤族は、なかなか踊りの要領を得ず、本番では迷惑がかからぬようにせねばと、そればかり気になり、実は自宅でも動画を見て練習させていただきました。

そして、あっという間に11月2日（土）の本番を迎え、出陣前となる17時半に外来ホールに集まり、皆で最後の踊りの練習をしたのですが、普段お世話になっている先生方、師長さん方から結成された艶やかな浴衣チーム、白衣姿、ネクタイ姿を見慣れている男性職員の凛々しい法被姿。気分は一挙に祭モードに入っていました。見守っていただいた患者さまの優しい笑顔は忘れません。

当院のスタート地点は市役所前。19時、沿道の方々から大きな声援をいただきながら、鹿児島医療センター142名の笑顔が弾け、踊りの行進が始まりました。

結果的に市役所前からいずろ電停まで、距離にしてわずか0.6キロ程度の行進ではありましたが、皆が気持ちを一つにし、同じ方向を向いて行進していく、そういったところに今回の意義があるのだろうと感じました。

祭の後は、心地よい疲労感と共に、『おはら祭』から、皆で気持ちを一つにする大切さを教えていただいたような気がしました。参加させていただき、ありがとうございました。

（文責：管理課長 瀬之口 眞澄）



令和元年度

循環器病看護エキスパートナース研修

10月28日～11月1日の5日間、循環器病看護エキスパートナース研修が開催され、14名の参加がありました。本研修は、循環器病看護の質の向上を図るため、患者や家族の個性を踏まえた水準の高い看護実践とリーダーシップの発揮できる人材の育成を目的とし、講義や事例を用いたグループワークをプログラムしました。また、今年度は、現在循環器病看護においても重要とされている「患者自らが望む人生の最終段階における医療・ケアへの取り組み」や、2018年の診療報酬改定より末期心不全患者が緩和ケア診療加算の対象に追加された点も踏まえ、鹿児島大学病院慢性心不全看護認定看護師の高山直子先生による「心不全患者における症状マネジメントと終末期看護」についての特別講演を行いました。本研修に参加した多くの研修生も「心不全患者に対するACP(アドバンス・ケア・プランニング)」を自己の課題として感じており、講演を通して自施設の課題と解決に向けた具体的な行動の明確化を図ることが出来ていました。研修全体を通して、自己課題に対する解決に向けた糸口を模索しながら、研修での学びを臨床の現場へ還元しようと意欲的に研修に臨む姿勢がみられ、研修後のアンケートにおいても研修生の高い満足度が得られていたことから、研修の目的を踏まえた充実した研修を実施することができたと思います。今後、研修生の皆様が自施設で研修の学びを活かし、エキスパートナースとして活躍され、循環器病看護の質の向上に貢献することを期待しています。

(文責：東7階病棟師長 久徳 博子)



循環器病看護エキスパートナース研修 開校式



カテーテル室見学 (PCI・ABL)



フィジカルアセスメント演習

第1回

日本口腔ケア学会鹿児島口腔ケアフォーラム 開催のお知らせ

一般社団法人日本口腔ケア学会の指名を受け、令和2年2月9日（日）に鹿児島医療センターにおいて「第1回日本口腔ケア学会鹿児島口腔ケアフォーラム」を開催します。

本フォーラムは、口腔ケアの普及、口腔ケアによる地域医療連携の推進により地域住民の健康増進に貢献することを目的として、地域包括ケア体制構築に向けて、医療・介護・福祉の連携を図ることを推進する研修会です。一般社団法人日本口腔ケア学会が全国各地で開催しているフォーラムで、今回鹿児島県では初めて開催されるフォーラムとなります。

本フォーラムは、歯科医師、医師、歯科衛生士、看護師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、介護福祉士等の口腔ケアや口腔管理に関係する全ての職種のメディカルスタッフを対象としています。内容も「がんの口腔ケア」と「認知症と口腔ケア」についての講演を企画しており、参加者の日頃の臨床に役立つものと考えます。関係する職種の多くの方のご参加をお願いします。

お問い合わせ

独立行政法人 国立病院機構鹿児島医療センター庶務班長 廣瀬

新任 紹介



麻酔科 蔡 香織

11月から麻酔科に採用になりました蔡香織です。2017年4月に麻酔科に入局して以来ずっと鹿児島大学に勤務していたため、新しい環境で、自分も未熟な点も多くご迷惑をお掛けすることも多いかと思えます。鹿児島医療センターでは心臓血管外科の麻酔を中心に幅広く麻酔を勉強させていただき、少しでも当院の一員として貢献できるよう頑張りたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 蘭田・丹後田・西辻・吉永・迫田・椎原・吉留・久保・櫻木・田辺・山之内・山口

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・菊永・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

